特集

いま『協同』を問い、『協同』を拓く時代へ
ー「全国『協同』集会2010 in 四国」の成功へ！ー

「いま『協同』を拓く2010全国集会 in 四国」が、2010年11月13日～14日にかけて、「<つながり>を希望の絆にー四国から発信しよう！～生命が育ち、『地域』と『公共』を拓く協同の力」をテーマに、香川県高松市で開催される。

「in 四国」集会で14回目を迎える全国「協同」集会は、日本労働者協同組合連合会、協同総合研究所などが実行委員会の結成を呼びかけ、各地の「協同」を求める団体、人々が一堂に会し、新しい社会をつくろうと、1987年に「いま『協同』を問うプレ集会」を開催。以来、ほぼ２年ごとに開いている集会である。

当初は、協同組合および「協同」をめざす人々が集い、新しい社会の展望を学び合う集会としてスタートし、「労働者協同組合」が社会に果たし得る可能性を探る取組みを行ってきた（1987～1992年。協同集会の開催を契機に、1991年３月、協同総合研究所が設立）。

1990年代以降は、全国各地に会場を移し、それぞれの地域で「非営利・協同」を求める多くの人々が集い、全体集会や分科会で「地域福祉」、「子育て・教育」、「農林業の再生」、「環境と資源」、「協同の働き方」、「まちおこし・地域づくり」などのテーマを通じた研究・交流集会に発展してきた（1994～2000年）。

2002年は21世紀最初の集会として、はじめて北九州と千葉の2カ所での開催となり、「千葉集会」では、堂本千葉県知事（当時）のご挨拶をいただいた。続く2004年の「ながの集会」には2,000人以上の参加者が全国から集まり、田中康夫知事（当時）と堀内光子ILO駐日代表（当時）の記念対談も行われた（2002年～）。以降、生協や農協の職員・組合員、NPO団体、医療・福祉関係者、労働組合、学生、芸術・文化団体、教員、研究者、自治体職員、マスコミなど幅広い方々が「協同」を求めて集い、分かち合い、交流する豊かな集会となっている。

前回、2008年の新潟集会では、「協同労働の協同組合」の法制化を目前にした集会として大きな期待が高まる中での開催として、「協同労働が広がり、法制化されれば、社会的認知度が高まり、飛躍的に発展し、日本社会の閉塞状況を打ち破り、将来の展望を切り拓くことにつながると確信している。この集会を協同労働の新たなステージに向かう契機に」との連合新潟会長・新潟労福協会長の江花和郎氏による開会挨拶の基調の高い水準が、記念講演や全体企画、２日目のセッションに引き続く内容となった。

現在、この「協同」集会は、その後、新潟や広島（1998年開催）においては、実行委員会参加団体（労福協や生協、農協、NPO団体、ワーカーズコープ）の呼びかけのもと「協同労働ネットワーク」結成につながり、協同労働の協同組合の法制化をめざした、さまざまな活動に取り組んでいる。

来る11月の「in 四国」集会は、“四国は一つ”を合い言葉に、すでに四国全県に実行委員会を結成し、プレ集会や協同懇談会など、協同の力でその準備を進めている。また、「新しい公共」を担う協同組合の発展をめざす取組みとしての期待も高く、「2012国際協同組合年事業」の国内認定事業第１号に位置づけられることとなった。

自然豊かな美しい風土と、お遍路さんへの“お接待文化”が色濃く残る四国の地を再発見する「協同」集会として、また日本社会の希望とつながりを創り出す「協同」の取組みとして、集会の成功に向けて準備に全力をあげて取り組んでいる。